

候補地 花田インター北東付近です



電子地形図(国土地理院)を加工して作成

【なぜこのエリアなのか】

〈集客性〉

- 姫路へのゲートとなる山陽姫路東IC、花田IC、国道372号に近接し、市中心部を結ぶルート上に位置しているため、アクセス性がよく、前面道路交通量も多い。
- 周辺に建物が少なく、農地が開けており、視認性が良い。

〈事業実現性〉

- 用地面積、現況用途、敷地形状、用地買収コストなどの条件が良くまとまった用地を確保できる。
- 浸水想定区域、土砂災害警戒区域などの区域外であり土地の安全性が高い。

〈周辺環境〉

- 住環境に対する影響が他の地点より少ない。
- 道路の混雑度が他の地点と比較して低く、付近に渋滞が発生しやすい地点もないため、交通面の条件が良い。

【候補地の選定経緯について】

〈立地条件〉

平成28年度に実施した「道の駅設置可能性等基礎調査」で選定した3候補路線(エリア)について、農業振興地域や土砂災害警戒区域などを含まないある程度まとまった土地を確保できる場所を条件に、4地点を抽出し、道の駅に求められる集客性、事業実現性、周辺環境の観点から整理し、考察・評価を行いました。

〈3候補路線〉

- ◆ 山陽姫路東IC付近の国道372号沿道
- ◆ 花田御着停車場線沿道
- ◆ 播但連絡道路に並行する国道312号沿道

〈4地点を抽出〉

- 国道372号沿線(播但連絡道東側)
- 国道372号沿線(花田町小川付近)
- 花田御着停車場線沿線(花田IC付近)
- 国道312号沿線(国道2号以南)

〈候補地の選定〉

【候補地選定結果】

国道372号沿線(播但連絡道東側)

・今後、用地取得に際し地元や地権者の方々に協力いただき最終的な整備地を決定します

「(仮称)道の駅姫路」整備基本構想 策定の背景と目的について

姫路市は、世界遺産・国宝姫路城を中心に国内外から多くの観光客を迎えています。来訪手段の約7割が自動車、車利用者の休憩機能や観光情報発信機能を併せ持つ道の駅の整備が求められる状況にあります。

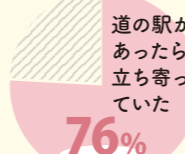
道の駅は当初、長距離の道路利用者の休憩施設として誕生しましたが、その後、地域住民のコミュニティの場や多くの観光客を集める地域活性化の拠点として注目を集め、地方創生には欠かせないものとなっています。

姫路市は広域交通の要衝であることから、緊急時の一時的避難場所、また物資や人員の中継地点としての機能を持ち、安全・安心の拠点として役割を担っていく必要があります。

以上のことから、姫路市の様々な地域資源と交通アクセスを活かした観光ゲートウェイとして、道の駅の基本3機能(休憩、情報発信、地域連携)に加え、さらに「利便性・魅力向上機能、交流機能」を併せ持った「(仮称)道の駅姫路」の整備内容について検討するものです。

ニーズと意見のまとめ

姫路城への来訪者アンケート調査では、もし希望の機能を備えた道の駅があった場合に本日立ち寄ったかの設問に76%が「立ち寄っていた」と回答するなど道の駅への立ち寄りニーズが高い。



市内の関係団体や事業者等からは、
● 観光情報拠点 ● 販売拠点(市内の特徴的な農産物や水産物、加工品、工芸品など)
● 播磨圏域との連携などの期待がある。

観光情報拠点

販売拠点

播磨圏域との連携

市民と大阪・神戸を含む周辺住民へのwebでのアンケート調査では、「道の駅にほしい機能」は、地元の食が楽しめる(買える)機能・サービス、カフェ、マルシェやフリーマーケット、花の広場を散歩できるなどが人気が高い。



市役所内からは、観光案内、出張所機能、次世代自動車に対応した設備、障害者就労施設等が供給する物品等の販売、子育て支援拠点等の機能の設置が考えられるという意見がある。

【整備スケジュールについて】

一般的な整備手法でのスケジュールですが、各事業や用地取得などの進捗により、大きく変わる可能性があります。

		事業年度					
		令和3年(2021)	令和4年(2022)	令和5年(2023)	令和6年(2024)	令和7年(2025)	令和8年(2026)
基本計画		○	○				
造成	基本設計		○	○			
	実施設計			○	○		
	造成工事				○	○	
建築	基本設計			○	○		
	実施設計				○	○	
	建築工事					○	○
供用開始						○	

姫路市産業局商工労働部道の駅推進室

〒670-8501 姫路市安田4-1

TEL:079-221-1549 FAX:079-221-2508 E-mail:michinoeki@city.himeji.lg.jp

発行:令和3年3月

みんなでもりあげていこう!

「姫路」に
道の駅が
できる!

姫路市

道の駅を創る。

交流を生み出す

世代・地域を越えた

播磨の実力にあふれ、

みりよく



3つの交流を生む基本方針

1

播磨の実力ある産品があふれ
触れることのできる
魅力的な場



2

子どもが楽しめ
三世代が楽しめる
世代を越えた交流の場



3

観光客や市民が集う
地域を越えた交流の場



3つの「道の駅 姫路」の基本機能

- 1 休憩機能**
駐車場、トイレ、子育て応援施設（ベビーコーナー等）等
- 2 情報発信機能**
道路及び地域情報提供コーナー、観光窓口等
- 3 地域連携機能**
地元特産品の販売所、レストラン・カフェ、行政サービスコーナー等

【参考事例】（イメージ）



駐車場
（道の駅奥河内くろまるの郷）



道路及び地域情報コーナー
（道の駅パレットピアおおの）



ベビーコーナー
（道の駅米沢）



地元特産品販売所
（道の駅神戸フルーツ・フラワーパーク大沢）

3つの「利便性・魅力」の向上機能

- 1 広域防災拠点機能**
広域支援部隊の活動拠点、ヘリポート、防災倉庫、芝生広場等
- 2 交通結節機能**
バス停留所（パークアンドバスライド）、レンタサイクル等
- 3 体験機能**
農業体験、伝統工芸体験、和菓子づくり体験等

【参考事例】（イメージ）



広域的な防災計画に位置づけられた道の駅（道の駅パレットピアおおの）
出典：国土交通省資料「道の駅」の防災機能強化について



レンタサイクル/スポーツバイク
（大津駅観光案内所）



農業体験/いも掘り

3つの「にぎわい拠点」の交流機能

- 1 観光ゲートウェイ機能**
観光・移住コンシェルジュ、市内・播磨の観光施設との連携等
- 2 こどもの遊び場**
芝生広場、遊具、キッズスペース、一時預かり等
- 3 イベントスペース**
キッチンカー・マルシェ対応広場・設備等

【参考事例】（イメージ）



観光コンシェルジュ
（道の駅飛鳥）



芝生広場
（網干なぎさ公園/姫路市）



キッチンカー
（道の駅パレットピアおおの）



遊具
（エコパークあぼし/姫路市）